

【認定】

特定非営利活動法人 SEEDS Asia

2021 年度事業報告書

防災で未来をつくる



2022 年 6 月

目次

| | |
|---|----|
| ご挨拶 | 2 |
| 2021 年度事業計画の達成状況 | 3 |
| 要約3 | |
| ① 防災/環境教育・啓発 | 4 |
| ② ツールの開発 | 5 |
| ③ 防災研究・調査促進 | 5 |
| ④ より安全な建設の推進 | 6 |
| ⑤ 防災の担い手育成 | 7 |
| ⑥ 防災管理体制強化促進 | 7 |
| ⑦ 緊急支援・避難者支援 | 8 |
| ⑧ コミュニティ防災促進 | 9 |
| 成果物 | 10 |
| 講師派遣実績 | 11 |
| 広報タスクフォース | 14 |
| 国別・事業別報告 | 15 |
| 1) ミャンマー ヒンタダ地区における学校・地域防災普及推進事業 | 15 |
| 2) ミャンマー ヒンタダ地区における教育継続支援事業 | 17 |
| 3) フィリピン 中部ビサヤ地方セブ州における教育継続支援事業 | 18 |
| 4) バングラデシュ ダッカ市における住民の災害対応能力向上事業第（第 2 年次） | 19 |
| 5) インド コロナ禍における教育継続を目的とした授業料・文具費の供与 | 21 |
| 6) 日本「With コロナ時代」の復興まちづくり支援事業 | 22 |

ご挨拶

2021 年度は、国内外で頻発する災害だけでなく、続く新型コロナウイルス、そしてミャンマーの政情不安やウクライナ侵攻等、人為的理由によって多くの命と日常が奪われた年でした。

こうした禍事にありながらも、SEEDS Asia は創立 15 周年を迎えました。9 月 4 日の 15 周年記念日には、理事メンバーの他、事業地で活躍してきた各国・各事業地のスタッフ（退職者を含む）がオンラインで集合し、[15 年を振り返るビデオ](#)や、[各国・各事業地からのメッセージ](#)を見ながら、再会を喜び、語り合う機会を設けました。場所と時間の巡り合わせの中で出会い、多くの方々と共に歩むとができた協力の「仕合せ」を、改めて強く感じた次第です。

2021 年度の活動を振り返りますと、ミャンマーでは「ヒンタダ地区における学校・地域防災普及推進事業」が完了しました。政情不安とコロナ禍という複合的な危機にある子どもたちが学校に戻るためのご支援を賜り、完成した学校兼シェルターは今、子どもたちの学び舎、そして地域の防災拠点として活用されています。また、バングラデシュでは「北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力向上支援事業」が完了しました。学校での雨水タンク整備と活用に加え、行政・地域・学校の連携によって作成したビデオ教材を活用し、全市的な防災キャンペーンが実施された他、学校での避難訓練や防災教育が展開されるようになりました。フィリピンでは、12 月に中部ビサヤ地方が台風 22 号（オデット）による被災を受けました。沢山の個人寄付を賜り、被害情報の把握に欠かせない発電機の供給を経て、現在は現地教育省を通じた学校の復旧・復興支援に取り組んでいるところです。また、令和元年東日本台風の被災地である長野市長沼地区での復興まちづくりへの支援では、長沼地区復興対策企画委員会のコミュニティ検討会の方々と連携し、まちの魅力・希望・課題を幅広く集め、可視化する取り組みをおこなって参りました。加えて、未災地支援として継続している鳥羽市立鳥羽小学校では、一昨年度から新たに発足した SEEDS Asia テクニカルアドバイザーと共に、カリキュラム・マネジメント支援を通じた ESD をベースとする防災教育の推進を図りました。上記の各事業地での活動の他、15 周年記念イベントとして、国内外の事業地で関わっている 5 か国 10 校の子どもたちをオンラインでつなぐ、「マイ・ホームタウン 子ども会合」を実施しました。全国で進められる教育の ICT 化と英語科目の導入を踏まえた、防災への取り組みとまちの魅力紹介は、学んだ英語を使用する異文化体験の機会でもあり、防災への学びを深めると同時に地球共通の課題に取り組む連帯を生み出す機会となりました。

いずれの事業も、多様な主体との協力が無ければ成し得なかった活動です。私たちは、このつながりと協力の「仕合せ」を拡大していくことが、未曾有の危機を乗り越える大きな力になると確信しています。

これからも、引き続き皆様のあたたかいご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

SEEDS Asia 事務局長
大津山 光子

2021 年度事業計画の達成状況

要約

2016 年の創立 10 周年に際し策定された「SEEDS Asia 2030 年プラン」では、持続可能な開発目標（SDGs）に相関性を持つ仙台防災枠組の 4 つの優先行動に基づき、日本を含めたアジアにおける経験や知見を活かし発展させる 8 つの重点活動を推進することを明確化しました。2019 度には同プランのレビューをおこない、2030 年を見据えた目標の再設定を協議しました。8 つの重点活動においてはできる限り数値目標を設定し、事業計画を立案し実施して参りましたので、2021 年度の活動について以下のとおり報告いたします。

①防災/環境教育・啓発活動

目標 3,664 人に対し計 3,396 人の実績でした。

②ツールの開発

ミャンマーにて学校兼シェルター建築に係る建設の心得・概略書を開発し、バングラデシュでは「防災ハンドブック」、防災啓発ビデオを作成しました。

③防災研究・調査促進

事業の効果や教訓、アジアの共通課題についての研究論文・出版物の発表を目標としており、発表はなかったものの各事業地で研究者へ協力をおこないました。

④より安全な建設の推進

ミャンマー・ワーボチーボ村の学校兼シェルターを完工し、その教訓・事例を元に「よりよい建物をつくるためには」を作成しました。

⑤防災の担い手育成

学校・地域・行政における防災の担い手 82 人の育成を目標としていたところ、全事業地で合計 48 人を育成することができました。

⑥防災管理体制強化促進

「学校防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する」ことを目指しており、国際基準を考慮した学校防災計画がバングラデシュで 1 事例策定されました。

⑦緊急支援・避難者支援

SEEDS Asia テクニカルアドバイザー（法律分野）1 名の任命とともに、緊急支援の発動基準に基づきミャンマー・フィリピン・インドで支援を実施しました。

⑧コミュニティ防災促進

未災地でのコミュニティ防災推進を 3 か所で実施しました。

以上のとおり、一部の重点活動において目標を達成することができませんでした。2020 年度に引き続き、2021 年度は新型コロナの感染拡大や人員不足を受け事業規模を縮小せざるを得なかった側面があります。持続化を図るツールや成果物も作成されました。今後は、より多くのステークホルダーとの連携を通じて計画の実現を目指したいと思います。

① 防災/環境教育・啓発

| | | |
|----------|--|---|
| 2030 プラン | 2030 年までに、SEEDS Asia はアジアにおいて、開発したツールを活用して、5 万人への防災教育機会を提供します。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績（直接裨益者のみ） |
| 全体 | 3,664 人への防災教育や啓発の機会を提供する (日本 280 人、ミャンマー67 人、フィリピン 0 人、バングラデシュ 3,512 人、インド 30 人) | 3,396 人への防災教育・啓発機会を提供した (日本 965 人、ミャンマー129 人、フィリピン 2,050 人、バングラデシュ 252 人) |
| ミャンマー | 67 人 | ●ワーボチーボ村及び周辺村の防災リーダー研修受講者（129 人） |
| フィリピン | 0 人 | ●大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動（2,050 人） |
| バングラデシュ | 3,512 人 | ●ラルマティア校生徒への防災教育、学校防災委員会への基礎研修の実施（252 人） ●国際防災式典への出展（3,252 人） |
| 日本 | 280 人 | ●大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動（953 人） ●長野市これからのまちを考える復興リレー講座（12 人） |
| インド | 30 人 | ●該当なし |

2021 年度の①**防災/環境教育・啓発**では、目標 3,664 人に対し計 3,396 人の実績（93%）でした。ミャンマーではヒンタダ地区ワーボチーボ村とその周辺村の防災リーダー累計 129 人に対し防災/環境教育と啓発をおこないました。フィリピンでの活動は計画していませんでしたが、現地教育省から依頼を受け、若手教員向けの防災・気候変動適応教育に関するトレーニングへ録画参加し、50 人のファシリテーターと 2,000 人の教員にリーチできました。バングラデシュでは国際防災式典への出展がコロナにより中止となった代わりに現地政府機関主催の大規模な防災訓練に参加し、啓発資料を配布しました。また、モデル校の防災委員会メンバーへのトレーニングや生徒への防災授業もほぼ計画通り実施できました。国内の講師派遣では計 953 人の学生や一般の方々などとお話をする機会をいただき、長野事業の「これからのまちを考える復興リレー講座」には 12 名が参加して下さいました。

2030 プランに基づく防災/環境教育・啓発の目標人数は 5 万人であり、2021 年度実績の同プランに対する達成率は 6.7%です。2019～2020 年度の実績は 15.8%だったため、累計達成率は 22.5%となりました。事業を通じた波及効果を確認していくため、来年度報告からは間接裨益者も合わせて報告することになりました。

② ツールの開発

| | | |
|----------|--|---|
| 2030 プラン | 2030 年度末までに、SEEDS Asia は事業地全てにおいて現地で継続的な運用（資金調達/現地予算化）を可能にする防災啓発ツールを開発し、継続・改善システムを構築します。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | 持続的に活用・改善できるツールを 4 つ開発する | 日本・長野事業及びミャンマー事業において防災教育・啓発のツールを作成した |
| ミャンマー | ●「建設の心得」作成（④と共通） | ●「よりよい建物をつくるためには」 |
| フィリピン | ●該当なし | ●該当なし |
| バングラデシュ | ●動画・防災ハンドブック | ●防災啓発 キャンペーン動画 ●防災ハンドブック |
| 日本 | ●全事業地：HP 上で Smart Knowledge Resource Centre (SKRC) として啓発ツールをオンライン化 ●長野：住民の意見集約ツール | ●Smart Knowledge Resource Centre 実施せず ●長野：住民の意見集約ツール |

2021 年度の②ツールの開発では、持続的に活用・改善できるツールの開発を目指しました。ミャンマーでは安全な学校兼シェルターの建設で得た教訓をまとめ、現地の工事関係者の参照とする「よりよい建物をつくるためには」を作成しました。バングラデシュでは防災啓発キャンペーンを展開し、その一環で動画を作成しました。また、2 年間の学校での取り組みをまとめた防災ハンドブックを作成し、バングラ語で発行しました。日本・長野事業では計画通り住民の意見を集約し見える化するりんご型カード「復興まちづくりりんご」を開発しました。一方、本部でこれまでの事業成果をオンラインで共有する Smart Knowledge Resource Centre は実現することができませんでした。このことから、4 つのうち 3 つ（動画と防災ハンドブックは 1 つとする）を達成したため、2021 年度目標の達成率は 75%です。

2030 年プランの達成に向けて、これらの各事業地のツールを持続的に活用・改善するシステムの構築、横展開が求められます。

③ 防災研究・調査促進

| | | |
|----------|---|-------------|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は アジア共通の課題あるいは、各国の取り組みの効果や教訓に関連する研究論文を最低 10 本は発表し、SEEDS Asia の学術的貢献を図ります。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | 事業の効果や教訓、アジアの共通課題について研究論文・出版物を発表する ●各事業の効果的な事業の実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携を進める（バングラデシュ事業で一本執筆） | 発表なし |
| ミャンマー | ●該当なし | ●実績なし |
| フィリピン | ●該当なし | ●実績なし |

| | | |
|-------------|--------------------------------------|---|
| バングラ デシュ | ●事業の効果的な実施に関わる研究・学術界 及び科学研究機関との連携 | ●東北大学姥浦教授による研究発表あり (北ダッカ市でのまちあるき) |
| 日本 | ●該当なし | ●事業地での研究協力（名古屋工業大学、 名古屋大学） ●アジア太平洋地域に緊急人道事態が発生し た際の救護及び早期復興活動に関わる認識 差アンケート調査への回答協力（東京外国 語大学） |

2020 年度の③**防災研究・調査促進**では、バングラデシュ事業の効果的な実施に係る研究・調査の発表を目標としていましたが、実績は 0 でした。要因として、新型コロナウイルスによる学校閉鎖が課され、対象校での研究に係る集会・協議ができなかったことが挙げられます。2030 年プランでは研究論文・出版物を 10 発表することになっており、今年度の実績は同プランに対し達成率が 0、2019 年度からの累計は変わらず 20%となりました。一方、事業地での研究協力は継続することができました。

④ より安全な建設の推進

| | | |
|-------------|---|--|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は質の高い学校・避難所を建設・改善/整備することによって、避難場所の改善を行うと共に、政策的貢献をおこないます。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | <u>教育継続を可能にする避難施設の普及と SEEDS Asia のミニмумスタンダードの基盤を 整備する</u> | <u>ミャンマーにおける 2 つ目の学校兼シェルターと 避難所ホールが完工、建設に係る心得・概略 書が完成</u> |
| ミャンマー | ●学校兼シェルター/避難所ホール完工 ●「建設の心得」の完成 | ●ワーボチャーボ村の学校兼シェルター及び避難所 ホール建設 ●「よりより建物をつくるためには」完成 |
| フィリピン | ●該当なし | ●実績なし |
| バングラ デシュ | ●該当なし | ●実績なし |
| 日本 | ●該当なし | ●実績なし |

2020 年度の④**より安全な建設の推進**においては、ミャンマーの安全な学校兼シェルター建設を完工させ、その教訓や優良事例をまとめた建設の心得・概略書「よりより建物をつくるためには」を完成しました。

2030 年プランにおいては 10 の学校兼シェルター建設を目標としているため、前々年度のナバーゴン村小学校に引き続き 1 校完成した今年度の、プランの累計達成率は 20%です。

⑤ 防災の担い手育成

| | | |
|----------|---|---|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた防災計画（学校・地区・行政など）の担い手 1.5 千人を育成します。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | <u>学校・地域・行政の担い手 82 名を達成</u> ● 学校/地域 防災指導員の育成 | <u>学校・地域・行政における防災の担い手 39 名を育成した</u> |
| ミャンマー | ● 42 人 | ● ワーボチーボ村・ワーボチーボ小学校の防災指導員を育成（コミュニティ 15 人・教員 2 人：計 17 人） ● ミャンマー事務所スタッフ 6 名 |
| フィリピン | ● 0 人 | ● 該当なし |
| バングラデシュ | ● 15 人 | ● ラルマティア校の防災委員会メンバー及び防災指導教員を育成（16 人） ● バングラデシュ事務所スタッフ 3 名 |
| 日本 | ● 25 人 | ● 長沼地区復興対策企画委員会コミュニティ検討会（地区復興計画の骨子となる大綱作成に係る活動、6 人） |

2020 年度の⑤**防災の担い手育成**では、82 名を目標としていました。これに対し、ミャンマーではワーボチーボ村及周辺村の防災リーダー研修を実施し修了試験に合格した防災リーダー17 人、さらにバングラデシュでは対象校ラルマティア校で設立した防災委員会への基礎研修と防災指導教員へのワークショップ等を通じ教職員・コミュニティ住民併せ 16 人を育成しました。また、長沼地区では復興対策企画委員会でもちづくりを推進するコミュニティ検討会のメンバー6 人が復興に関する知見を得、合計 39 人の育成となり、2021 年度の達成率は 48%です。

2030 年プランでは 1,500 人の防災指導員を育成することを目標としており、この目標に対する今年度の達成率は 2.6%です。コロナ禍でフィリピン事業の開始が遅延していること、ミャンマーの集会禁止令の発布などが要因です。また、2019 年度からの累計達成率は 43.2%となりました。

⑥ 防災管理体制強化促進

| | | |
|----------|---|---|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた学校防災計画・地区防災計画のひな型を状況に応じて 150 か所で作成・カスタマイズすると共に、対象地・区域の普及 100%を目指します。 | |
| 2021 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | <u>学校防災計画・地区防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する</u> | <u>学校防災計画の SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤としてバングラデシュの防災ハンドブックを作成</u> |
| ミャンマー | ● 該当なし | ● 該当なし |
| フィリピン | ● 該当なし | ● 該当なし |

| | | |
|---------|--------------------|--------------------------------------|
| バングラデシュ | ●学校防災計画作成（バングラデシュ） | ●ラルマティア校の学校防災ガイドライン作成 ●防災ハンドブック作成 |
| 日本 | ●該当なし | ●実績なし |

2021 年度の⑥**防災管理体制強化促進**においては、「学校防災計画・地区防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する」ことを目指しており、2019 年度に完成したフィリピン事業で作成した「学校防災管理チーム運営指針」に基づきバングラデシュの対象校で学校防災計画を策定しました。また、バングラデシュでは対象校の活動を基に学校の防災ハンドブックを作成し、ダッカ市内の他校でも同様の防災管理体制強化が進む仕組みとして残しました。

2019 年度から 3 か所（ミャンマー1 校・バングラデシュ 2 校）で計画策定を支援しました。2030 年プランでは学校防災計画・地区防災計画を 150 か所で作成・カスタマイズする目標となっており、今年度の達成率は 2%です。今後は国内外で地区防災計画にも取り組むことが目指されます。

⑦ 緊急支援・避難者支援

| | | |
|----------|---|--|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は、事業を展開したことがある国で甚大な被害が発生した場合、緊急支援を実施できる人的ネットワークと金銭的リソースを担保し、迅速な緊急支援を展開します。 | |
| 2020 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | <u>各事業実施国で積極的に事業実施に関与し、防災や緊急時の活動の担い手として、資金や人的リソースを集約できる人材を任命・ネットワーク化するための基盤を整備する</u> | <u>法律分野のテクニカルアドバイザーを任命し、設定した緊急支援発動基準に基づきミャンマーとフィリピン、インドで事業を開始した</u> |
| ミャンマー | ●該当なし | ●ヒンタダ地区内の小学校への教育継続支援（8 校、471 名対象） |
| フィリピン | ●該当なし | ●基準に基づき、緊急支援事業開始（台風オデット） |
| バングラデシュ | ●該当なし | ●実績なし |
| インド | ●該当なし | ●新型コロナの影響を受けたバラナシ市内の児童生徒への学習支援金供与（1 校、32 名） |
| 日本 | ●SEEDS Asia テクニカルアドバイザー（法律分野）の任命 | ●SEEDS Asia テクニカルアドバイザー（法律分野）の任命 1 名 |

2021 年度の計画に基づき、⑦**緊急支援・避難者支援**では、2020 年度に設置されたテクニカルアドバイザー制度にて法律分野のアドバイザーを 1 名任命しました。さらに、災害支援の発動基準を新たに設定し、その基準に基づきフィリピンの台風オデットへの支援開始を判断しました。また、新型コロナにより学習の継続が困難だったミャンマーのヒンタダ地区の小学校（8 校、471 名対象）、またインド・バラナシ市内の児童生徒（1 校、32 名）への文具及び支援金を供与

しました。

⑧ コミュニティ防災促進

| | | |
|----------|--|---|
| 2030 プラン | 2030 年までに SEEDS Asia は、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている「未災地」での活動を 5 か所で実施し、備えの強化を推進します。 | |
| 2020 年度 | 目標 | 実績 |
| 全体 | 災害による被害が予測されている未災地での活動を展開する | 未災地での活動を展開した |
| ミャンマー | ●ワーボチャーボ村小学校と地域の連携強化 | ●ワーボチャーボ村にて学校と連携しコミュニティ防災を実施 |
| フィリピン | ●該当なし | ●実績なし |
| バングラデシュ | ●ラルマティア校における地域の連携強化 | ●北ダッカ市にて学校からコミュニティへのアプローチを実施 |
| 日本 | ●鳥羽小学校と地域の連携強化 | ●三重県鳥羽市の鳥羽小学校に対し防災教育推進に向けたカリキュラム・マネジメントの研修を提供 |
| 全事業地 | ●該当なし | ●マイ・ホームタウン 子ども会合を開催 |

2021 年度の⑧**コミュニティ防災促進**は、未災地でのコミュニティ防災活動展開を計画しており、ミャンマーとバングラデシュ、三重県鳥羽市立鳥羽小学校にて活動を展開しました。2030 年プランでは「2030 年までに、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている未災地での活動を 5 か所」で実施することを目標として掲げており、2019 年度からの累計で同じ 3 か所の実施（ミャンマー、バングラデシュ、鳥羽市）となり、達成度は 60%です。

12 月には「マイ・ホームタウン 子ども会合」を開催し、ミャンマー 2 校、フィリピン 2 校、日本 3 校、インド 2 校の計 9 校参加のもと、自校やふるさと自慢や災害の備えについての紹介を通じた交流を促しました。この国・地域を超えたつながりを通じ、参加した子ども達が協力して地域課題に取り組み未来を築くことが望めます。

報告書は[こちら](#)。



成果物

| 発行者 | タイトル | 発行地 | 言語 | 表紙 |
|------------|---|---------|------------|--|
| 冊子 | | | | |
| SEEDS Asia | 地域と学校の防災ハンドブック | バングラデシュ | バングラ語 |  |
| SEEDS Asia | My Hometown 子ども会合 報告書 | オンライン | 日英 |  |
| SEEDS Asia | よりよい建物をつくるためには | 日本 | 日本語 |  |
| 動画 | | | | |
| SEEDS Asia | History of SEEDS Asia - 15 th Anniversary | オンライン | 英 | n/a YouTube |
| SEEDS Asia | Messages to SEEDS Asia for its 15 th Anniversary | オンライン | 英 | n/a YouTube |
| SEEDS Asia | Chalo Jane Nei! | バングラデシュ | バングラ／ベンガル語 | n/a YouTube |
| 論文 | | | | |
| | なし | | | |

| 公的機関冊子 | | | | |
|--------|--------------------------|----|---|---------------------|
| 外務省 | 2021 年版開発協力白書 日本の国際協力 | 日本 | 日 | リンク |

上記の他、エシカルな選択・情報を提供されている ELEMENIST SHOP による SDGs 特集の [SDGs11 項目記事](#)の監修依頼を受け、掲載されました。

講師派遣実績

| 日付 | 主催者 | 実施場所 | イベントタイトル | 講演タイトル：内容 | 派遣講師名 | 対象 | 参加人数 |
|------------|------------|-----------|---------------------------|---|----------------------------------|-----------------|------|
| 2021/04/22 | 甲南女子大学 | オンライン | NPO/NGO 論 | 災害に負けない人とまちをつくるために | 大津山光子（事務局長） | 甲南女子大学 2-3 回生学生 | 25 |
| 2021/05/18 | ヤンゴン日本人学校 | オンライン | 防災授業 | このときどうする？—いつか来るそのための | 大津山光子（事務局長） | ヤンゴン日本人学校 児童生徒 | 26 |
| 2021/07/09 | JICA 地球ひろば | オンライン | JICA 地球ひろばセミナー | 防災がつなぐフィリピンと日本の教育現場—子どもの未来を守る仕組みづくりに向けて— | 有馬沙紀（海外・国内事業統括） | 国際協力に関心がある市民 | 56 |
| 2021/07/12 | 神戸学院大学 | オンライン | 現代社会学部 社会貢献論 II/ 社会防災特別講義 | 『よりよい復興』はみんなのもの？—「縁助」を通じた災害に負けないまちづくり・人づくり— | 大津山光子（事務局長） | 神戸学院大学学生 | 50 |
| 2021/08/02 | 鳥羽市立鳥羽小学校 | 鳥羽市立鳥羽小学校 | 教員研修会 | ・カリキュラム・マネジメント ステップアップのために ・パールカリキュラムがつくる鳥羽の未来 | 岸田蘭子（テクニカルアドバイザー） 大津山光子（事務局長） | 鳥羽市立鳥羽小学校教員 | 13 |
| 2021/ | 公益社団法人日本ユネ | オンライン | 2021 年度アクサユネスコ | 東日本大震災からの教育復興や防災・減災教育の基礎と理 | 及川幸彦（理事） | 日本の学校教員 | 27 |

| | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--------------------------|---|--|---------------------------------|---------------------|--------------|
| 9/21 ～ 9/22 | スコ協会連 盟 | | 協会 減 災教育プ ログラム | 論、同カリキュラム・マ ネジメント、気仙沼市 震災遺構伝承館や 気仙沼市教育委員 会、階上小学校・中 学校、多賀城高校に おける減災教育の実 践事例、そして減災 教育における NPO/NGO との連携 (N 助) | 上田和孝（アド バイザー） | | |
| 2021/ 10/07 | 長野市立東 北中学校 Hope Apple、お 屋敷保存会 | 米沢邸 (長野市 長沼地 区) | 総合的 な学習の 時間 | 「長沼の復興まちづく り」の集計結果 報告 | 大津山光子 (事務局長) | 長野市立 東北中学 校生徒 | 26 |
| 2021/ 10/18 ～ 1/14 | フィリピン教 育省 | オンライン | YSEALI (Young Southe ast Asian Leader s Initiativ e) Climate Change makers | Disaster Risk Reduction and Management and Climate Change Adaptation Integration into the Curriculum | 有馬沙紀（海 外・国内事業 統括） | 教育省職 員と教員 | 2,050 |
| 2021/ 11/10 | 兵庫県教育 委員会 | SEEDS Asia 本部 | トライや る・ウィー ク | ムカデに学ぶ人生の 歩き方 (内容：活動紹介 や事務局長の職業 選択過程の振り返 り、ミャンマースタッフと の国際交流体験) | 大津山光子 (事務局長) | 神戸市立 横尾中学 校生徒 | 8 |
| 2021/ 11/29 | 放送大学 | オンライン (収録) | SDGs と 教育 | 第 11 回目：防災・ 減災の視点からの SDGs と教育 | 及川幸彦（理 事） 大津山光子 (事務局長) | 放送大学 学生 | 500) (想定) |

| | | | | | | | |
|----------------|------------------|-------------|------------------------------------|--|---|--|----|
| 2021/ 11/12 | 京都東ロータリークラブ | 京都ウェスティンホテル | 例会 | 仙台防災枠組みと日本の現実 ー令和元年東日本台風の被災地から見えることー | 大津山光子 (事務局長) | 京都東ロータリークラブ会員 ゲスト神戸東、大阪東 ロータリークラブ代表者 | 60 |
| 2021/ 11/12 | 京都東ロータリークラブ | 京都ウェスティンホテル | 国際奉仕フォーラム | コロナ禍×情勢不安の危機にあるミャンマー | 大津山光子 (事務局長) | 京都東ロータリークラブ会員 ゲスト神戸東、大阪東 ロータリークラブ代表者 | 33 |
| 2022/ 02/14 | 鳥羽市立鳥羽小学校 | オンライン | 特別校内研修会 | まちの災害リスク削減に向けて ー「わかる」から「やってみよ！」へのバージョンアップー | 岸田蘭子 (テクニカルアドバイザー) 大津山光子 (事務局長) | 鳥羽市立鳥羽小学校 教員 | 13 |
| 2022/ 02/26 | 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 | オンライン | 2021 年度アクサユネスコ協会 減災教育プログラム 減災フォーラム | 基調講演 災害に負けない人づくり・まちづくり ーアジアと日本の現場からー | 及川幸彦 (理事) 上田和孝 (アドバイザー) 大津山光子 (事務局長) | 日本国内の学校教員 | 30 |
| 2022/ 03/16 | 鳥羽市立鳥羽小学校 | 鳥羽市立鳥羽小学校 | 総合的な学習の時間 | 語り部ボランティア派遣 | 大津山光子 (事務局長) 他 | 鳥羽市立鳥羽小学校 4年生-6年生児童 | 86 |

委員会等

| | | |
|---------|--------------------|--------------|
| 2021 年度 | 神戸市教職員組合 神戸教育文化研究所 | 大津山光子 (事務局長) |
| 2021 年度 | 神戸学院大学 非常勤講師 | 大津山光子 (事務局長) |

広報タスクフォース

ホームページの改訂を計画していましたが、2021 年度の実施を見送りました。

国別・事業別報告

1) ミャンマー ヒンタダ地区における学校・地域防災普及推進事業

| | |
|-----------------|---|
| 期間 | 2021 年 3 月～2022 年 2 月 |
| パートナー | ミャンマー工学連盟（Fed.MES） |
| 資金提供 | 日本外務省 |
| 受益対象者 | エヤワディ地域ヒンタダ地区ワーボチーボ村の人口（教員・児童含む）（1,746）、学校兼シェルター建築の心得・概略書研修参加者（14）、防災リーダー育成研修（42） 計 1,802 人 |
| SEEDS Asia 2030 | 防災/環境教育・啓発、より安全な建設の推進、防災指導員育成、防災管理体制強化・促進、コミュニティ防災の促進 |

SDGs との関連



完成したワーボチーボ村学校兼シェルター



「よりよい建物をつくるためには」

（現地政治事情に配慮し、地図情報を削除し掲載しております）

< 背景・課題 >

エヤワディ地域ヒンタダ地区は、ミャンマーの主要河川が分岐するデルタ地域の起点にあり、洪水の常襲地となっています。2015 年の大洪水では、85,400 人が被災し（ミャンマー情報管理ユニット、2015 年）、過去にも堤防の決壊や越水で幾度も大規模な洪水・浸食などの水災害に見舞われてきました。2016 年に SEEDS Asia とヤンゴン工科大学が共同で実施した湾岸地域の気候変動災害リスクに関する調査では、区内の 251 の小中高校（当時）のうち、21%が雨季に一時的に閉鎖することに加え、地域に安全な避難場所がないことが明らかになりました。そこで、SEEDS Asia は 3 か年事業を通じて、教育と地域の防災拠点となる学校兼シェルターを建設し、避難所としての活用に向け、地域の人材育成を含めたハードとソフト双方を組み合わせた包括的な学校防災事業を推進しています。前年度のナバーゴン村での実績を踏まえ、さらなる横展開が求められていました。

<2021 年度の実績>

新型コロナの感染拡大やクーデターの影響により「ヒト・モノ・カネ」が停滞する事態が発生しましたが、2021 年度はヒンタダ地区の堤外地で洪水常襲地となっているワーボチャーボ村での学校兼シェルター建設を継続し完工しました。また、スタッフと村の住民・学校教職員の安全を最優先としながらも、防災リーダー研修もおこないました。研修では多様な危機が迫る中で自らの命を守る手段の確保が喫緊の課題となっていることから、水と衛生・応急処置（ミャンマー赤十字）、防災の基礎知識・災害文化・記憶の継承・受援力の強化（SEEDS Asia 職員）に加え、気象（気象水門局）、防火・初期消火・捜索救助などの災害対応能力の強化に努め、累計 125 名が参加しました。また、当該国では集会の制限があったことから、計画していた総合防災避難訓練は実施せず、3 日間に亘る図上訓練を行い、エヤワディ河の水位に沿った避難計画を「コミュニティタイムライン」として住民と学校と連携し策定しました。また、よりよい建築を推進するためにミャンマーの建設会社を対象とした研修を実施する予定でしたが、現地情勢などの事情に鑑みて実施を断念し、代わりにミャンマーで建設案件を計画・実施している日本の NGO 関係者を対象としたオンライン講座を開催しました。

2) ミャンマー ヒンタダ地区における教育継続支援事業

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 期間 | 2021 年 11 月～2022 年 3 月 |
| パートナー | ヒンタダ地区の小学校 8 校（洪水常襲地） |
| 資金提供 | 京都東ロータリークラブ・大阪東ロータリークラブ有志 |
| 受益対象者 | エヤワディ地域ヒンタダ地区の小学生 計 471 人 |
| SEEDS Asia 2030 | 緊急支援・避難者支援 |
| SDGs との関連 | |



京都東・大阪東ロータリークラブの有志の方々からの寄付より購入した
8 校分（471 名分）の文房具

< 背景・課題 >

ミャンマーではコロナ禍とクーデターによる混乱の中、約 2 年に亘って学校閉鎖が続きました。さらにミャンマーの経済状況が深刻な事態となる中、現地では現金収入を得ることがますます困難となっています。このままでは、貧困や格差の深刻化など、潜在的な社会課題が大きく膨らみ、より災害に脆弱な状態に陥ることが懸念されます。公教育下の 960 万人の子どもたちが影響を受けており（[UNESCO](#)）、中でも、530 万人に及ぶ児童が読み書き計算、そして社会規範など、生涯に亘って必要となる基礎教育の機会を奪われたことがわかっています。この膨大な数の子どもたちをこのまま見過ごすことは、ミャンマーの未来にとって深刻な事態を及ぼすものであると考えています。そこで、11 月に京都東ロータリークラブ主催により開催された国際奉仕フォーラムにて現状をお伝えし、緊急支援を募りました。

< 2021 年度の実績 >

2022 年 3 月、SEEDS Asia は京都東ロータリークラブのご寄付をお預かりし、児童の復学を支援するため、ヒンタダ地区内の 471 人の小学生に対し鉛筆やノート、定規などを提供することができました。緊急支援は、子どもたちの希望を叶えるだけでなく、保護者の苦しみを和らげるものでもあり、また同時に地域の未来を支えるものになりました。

3) フィリピン 中部ビサヤ地方セブ州における教育継続支援事業

| | |
|-------|---|
| 期間 | 2022 年 2 月～2022 年 8 月 |
| パートナー | フィリピン国教育省 |
| 資金提供 | 寄付、ジャパン・プラットフォーム（政府資金） |
| 受益対象者 | フィリピン国教育省第 7 地方事務所下の地区事務所職員（10）、セブ州内の 学校教員（50）、児童生徒（50） 計 1,060 人 |

SEEDS Asia 2030 緊急支援・被災者支援

SDGs との関連



離島に運ばれる発電機



被害を受けた学校への訪問

< 背景・課題 >

台風ライ（現地名オデット）は 2021 年 12 月 16 日から 17 日にかけてフィリピン中部を襲いました。400 人以上の方が亡くなり 1,000 万以上の方が影響を受けた中、クリスマス直前に発生した災害であることから、欧米からの支援はなかなか届きませんでした。また、日本からの救援においても電力や通信網が破壊されたことにより現地の状況が見えず、難しい局面を迎えていました。

2022 年 3 月時点で被災校数は全国で 29,671、そして SEEDS Asia が過去数年間にわたり協働してきた中部ビサヤ地方では 3,744 に及んでいます。

< 2021 年度の実績 >

SEEDS Asia は災害発生直後に現地教育省事務所の職員と連絡をとり、現地で既に価格高騰・在庫不足となっていた発電機 2 台を別の島で調達の上、供与することにしました。また、ジャパン・プラットフォームの資金を活用し、被災した学校が授業再開の目途を立てられるよう、引き続き電力が回復していない地域の学校に発電機、そして校庭に木やがれきが散在している学校に清掃キットを貸与し、学校建物の被害調査を進める計画を立てました。現在、資機材の調達と実態調査を同時におこなっています。

4) バングラデシュ ダッカ市における住民の災害対応能力向上事業第（第2年次）

| | |
|-----------------|---|
| 期間 | 2020年3月～2022年3月 |
| パートナー | 北ダッカ市（DNCC） |
| 資金提供 | 日本外務省 |
| 受益対象者 | 学校運営委員会（15）、教員（5）、生徒（200）、地域住民（30） 計 250 人 |
| SEEDS Asia 2030 | 防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災促進 |

SDGs との関連



トレーニングを受けた教員による防災授業



最終成果報告会

< 背景・課題 >

バングラデシュは、長い歴史の中で地理的特徴からサイクロンや高潮など自然災害の影響を受けてきました。さらに近年の急激な人口増加と都市化により都市型災害のリスクが高まっています。北ダッカ市は災害に強いまちを作るための取り組みを進めているものの、住民が子どもの頃から防災について学ぶ機会がないため、災害に対応する能力及び住民が使用できる基礎的防災インフラが不足していることに加えて、市民が防災について情報や知識を得る機会がなく、その行動が災害の影響を悪化させていることなどから、主にソフト面で自助・共助による災害へのレジリエンスを高めることが喫緊の課題となっています。本事業では、2019年4月まで実施していた JICA 草の根技術協力事業のコミュニティ防災支援プロジェクトでは対象としてこなかった学校防災に取り組み、学校を地域の防災拠点とした災害対応における協力体制づくり、また地域の災害対応能力向上を支援します。

< 2021 年度の実績 >

新型コロナの感染拡大を受け、学校閉鎖などの制限が課され、本事業の活動も大きな影響を受けました。学校を中心とした防災モデルを横展開する事例づくりを担当するラルマティア校の教職員はオンライン会議などに慣れていなかったことから、ZOOM の操作もトレーニングをするなどの工夫をし、なるべく接触を避けながら教職員の防災能力向上を図りました。同時にラルマティア校には雨水タンクと消火システム、その他消火器などの防災資機材を導入し、

水源に限られる北ダッカ市において校内に大きな規模の消火用水を確保する試みとしました。研修を受けた防災指導教員は、トレーニングで身に着けた知識を基に、生徒向け授業を実施しました。累計 207 名の生徒がオンラインで防災授業を受け、平均 88%の受講者が地域のハザードに関する正しい知識を身に着けたことが証明されました。

2 月 17 日には最終成果報告会を実施し、前年度と併せ 2 校で展開された防災の取り組みを広げる役割を担う関係者に対し、事業について共有しました。ラルマティア校の校長からは「災害や減災については無知だったが、今後は全ての学校が私達と同様に災害リスク管理に取り組むべきだ」との呼びかけがあり、北ダッカ市の土木部気候変動・災害管理部門主任技術者は「この事業の成果を継続・展開するには学校の努力が欠かせない」との激励を送りました。

5) インド コロナ禍における教育継続を目的とした授業料・文具費の供与

| | |
|-----------------|------------------------------------|
| 期間 | 2021 年 11 月～2022 年 3 月 |
| パートナー | 聖アトゥラナンド修道校（インド ウッタルプラデーシュ州 バラナシ市） |
| 資金提供 | リコー社会貢献クラブ・FreeWill |
| 受益対象者 | 児童生徒 32 名 |
| SEEDS Asia 2030 | 緊急支援・被災者支援 |
| SDGs との関連 | |



< 背景・課題 >

インドで最も人口の多いウッタルプラデーシュ州の主要都市であるバラナシ市は、ヒンドゥー教の聖地として火葬場が集積しているため、コロナ禍でも地域内外の人の往来が絶えず、新型コロナ感染者が爆発的に増加しました。死者は州内で 23,494 名にのぼり、また、親の死亡や失業を受け退学をせざるを得ない児童生徒もいます。

< 2021 年度の実績 >

過去に協働実績があるバラナシ市内の学校と協議し、3,600 名の在学中 32 名の児童生徒が新型コロナにより影響を受けたという聖アトゥラナンド修道校への支援を決定しました。日本と違い教科書は有償で、自治体の社会保障制度や奨学金制度も整備されていないことから、新型コロナにより失職・死亡してしまった親を持つ子にとって、教育の継続は非常に困難な状況です。「このままだと退学を避けられない」という状況に陥った児童生徒に対し、学習支援金としてリコー社会貢献クラブ・FreeWill からお預かりした寄付金を供与することとしました。この支援金により、対象児童生徒は通学を継続することができました。

6) 日本「With コロナ時代」の復興まちづくり支援事業

| | |
|-----------------|---|
| 期間 | JPF 2021 年 4 月～2022 年 6 月 JANPIA 2020 年 6 月～2022 年 3 月 |
| パートナー | ジャパン・プラットフォーム（JPF） |
| 資金提供 | ジャパン・プラットフォーム（JPF）、日本民間公益活動連携機構（JANPIA） |
| 受益対象者 | 長野県長野市長沼地区住民 |
| SEEDS Asia 2030 | 防災指導員育成、緊急支援・被災者支援、コミュニティ防災の促進 |
| SDGs との関連 | |



住民の意見を可視化した長沼の「復興まちづくりの樹」



復興リレー講座（丹波復興女性プロジェクト会ばんぽ好（こ））と ZOOM にて

< 背景・課題 >

2019 年 10 月に発生した台風 19 号により甚大な被害を受けた長野県長野市長沼地区は、「魅力あるまち長沼ここで生きていく」をスローガンに、災害後のまちづくりに取り組むため、復興対策企画委員会を設立しました。復興を目指すにあたり、先行事例を含む情報収集や住民 1 人 1 人との密な対話が欠かせませんが、新型コロナの感染拡大により、そういった取り組みは困難を極めています。一方、ジャパン・プラットフォームは「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき資金分配団体として平成元年台風 15 号・19 号被災地支援をおこなっており、SEEDS Asia はこの資金を活用して長沼地区の復興の実現を支援しています。また、2021 年度からはジャパン・プラットフォームの令和元年台風被災者支援（台風 15 号、台風 19 号）の助成も受け、長沼地区内に駐在事務所を設け、地区の活動に近い支援を図っています。

< 2021 年度の実績 >

2021 年度の長沼地区の復興に関する方針として、「住民自治協議会と復興対策企画委員会の連携」及び「コミュニティ再生への尽力」が掲げられました。そこで、復興対策企画委員会内にコミュニティ部会（後にコミュニティ検討会に改名）が設置され、コミュニティ再生を目指す協議が開始されました。この委員会には地区内 4 区から選出された代表者及び長沼地区住民自治協議会会長、そして復興対策企画委員会委員長が所属し、SEEDS Asia は協議にあたるツールの提供や会議運営の支援などを担当しました。

まずは仮設住宅におられる方々を含め、全ての住民の意見を集約したいとの思いから、「復興まちづくりんご」と称したりんご型カードを用いて「長沼地区の好きなところ」、「地区の課題」、「地区でしたいこと」の 3 種類の自由意見を募集しました。結果、408 枚のカードが集まりました。これらを見える化し、イラスト地図に落とし込んだ「ながぬまっぷで再発見！」としてまとめ、2022 年度からまちづくりを担当する住民自治協議会まちづくり委員会への引継ぎ資料としました。また、まちの復興の担い手をつなぐ、まちの人材バンク制度「長沼りんごっちゃん」の創設に向けたネットワークの基盤構築を支援しました。2021 年度から引き続き復興リレー講座を開催し、丹波市市島町で復興に取り組む女性グループ「ぽんぽ好（こ）」との交流や、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館及び南三陸ホテル観洋の災害語り継ぎについての紹介をしました。

尚、本事業では国内の大学からのインターンを受け入れており、2020 年度は通年に亘り新潟大学工学部から一名、2021 年度は日本大学から一か月一名受け入れ、多様な主体の参画を促進しています。

【認定】特定非営利活動法人 SEEDS Asia
事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 1-7-7-307

Tel.: 078-766-9412

Fax.: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Website: <https://www.seedsasia.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>

Twitter: <https://twitter.com/seedsasia?lang=ja>